

進水後の「あいしま」

2021-4-25 池田良穂

会誌の新造船紹介に、萩海運の相島航路の新造船の紹介を掲載することにしていました。4月9日に進水とのことで、市民に一般募集していた船名もその時に発表とのことでした。船名が「あいしま」に決まったことは萩市のホームページに一瞬掲載されましたが、その後インターネットでの検索を続けても、それ以外の情報や進水の写真も見つかりませんでした。会誌の印刷入稿の締め切りも迫った来たので、25日に、建造されている四日市に撮影に出かけようとしていたところ、その前夜に、ようやく1件の新聞記事がヒットしました。山口新聞の4月24日付けの記事で「新船50トンオーバー 萩・相島航路 6月就航不可能に」というタイトルで、内容は4月9日に進水式を迎えて海上に浮かんだ時に、関係者が「沈みすぎ」と指摘して、造船所が調べたところ、154トンのはずの船体重量が203トンと、約50トンもオーバーしていたとのこと。約32%も計画よりも重くなっていたとのことです。

記事では、同船は鉄道・運輸機構と萩海運(第3セクターで、社長は萩市長)との共有船で、解約も視野に調整中と結ばれていました。建造した造船所は、船内の各種装備の重量計算を間違えていたと説明しているそうです。



造船所に係留されている「あいしま」。進水した軽い状態で、船側の満載喫水線が沈み、船底塗料が見えていません。